



令和7年2月10日(月)、 国府宮はだか祭が開催されました

地域での取り組みを取材しました！
取材の内容については裏面をご覧ください



■ 元気の秘訣？ ■

「年をとったら年々出不精になって、外へ出ようという気持ちも少なくなりました。けれど家でじっとテレビを見て、眠くなったら昼寝して…というのを続けていたらすぐに体も弱ってしまうから、外との関わりを持てるといいね。人と話さないとも気分も塞いでしまうし。今の体力・気力が維持できるといいけど…」



「元気なうちは予防という意識もちづらいけど、意識できるといいよね。」

「『きょうよう（今日用事がある）』、『きょういく（今日行くところがある）』が大事とこの間行ったお店のトイレに書いてあったよ。趣味だとか地域の役があって忙しくしている方はいつまでも元気にしているねえ。元気に毎日出かけられている。皆に役割があるといいねえ。」

令和6年11月18日(月)小正ネットワーク中の会話より



■ 小正ネットワークって？ ■

少子高齢化が進み、さらにコロナ禍で人々のつながりが薄れつつある昨今。「小正ネットワーク」では、小正市民センター地区の皆さんが互いに支え合うことのできる地域となることを願って定期的に話し合いをしています。話し合いで定めた目指す地域像は、

「地域の方々が

孤立せず、

つながり合い、

助け合って

生活していること。」



そのために、「住民同士のつながりはどうしたら生まれるだろう？」

「自分たちにはできることは何だろうか？」と、つながりづくりを進めるため、既に小正市民センター地区内で行なわれている地縁活動や、他の地区で取り組まれている活動などの情報を共有して、つながりの輪を広めていく方法を考えています。

今後、小正市民センター地区内の情報を発信して行きますので、素敵な地縁活動がありましたら、是非情報をお寄せください。

■ 協力団体 ■

- 小正市民センター地区まちづくり推進協議会
- 小正・下津地区民生児童委員協議会
- 稲沢東部地区老人クラブ連合会（小正市民センター地区内老人クラブ）
- 小正・下津地域包括支援センター

小正ネットワークは、稲沢市役所福祉課から委託を受け、稲沢市社会福祉協議会の生活支援コーディネーターがサポートを行っています。本紙についてのご意見・ご要望は稲沢市社会福祉協議会 地域福祉課 加藤まで

☎0587-23-6713（平日8:30~17:15）



■ 小正厄年奉賛会って？ ■

小正五区に住む男性で、その年に厄年となる方の会です。

裸になることが出来ない地域の老若男女の厄を餅へつき込み、鏡餅として国府宮神社へ奉納したり、老若男女の願いを込めたなおい笹を神前に届けたりとはだか祭に関する活動を主体となって行なっています。

■ 2/2(日) もちつき ■

朝6時に祈禱いただいた餅を、正明神社境内で子どもから大人まで、ワイワイついでいきます。その量、約14俵。

「●●さん今いくつになったの?」「おばちゃんのこと覚えてる?大きくなったねえ!」そんな会話があちらこちらから聞こえます。

協力してついた餅は奉納用と地域への振る舞い用に分けられ、前日から婦人会らが支度をした豚汁とともに振る舞われました。



振る舞われたつきたての餅 ▶



■ 2/9(日) パレード、奉納 ■

正明神社と小池神社で祈願後、9俵の鏡餅となおい笹を載せたトラックを地域へ走らせます。トラックを見送る地域の方々へミカンなどを手渡ししながら国府宮神社へ。参道で笹を構え境内へ進み、鏡餅を拝殿に奉納します。



奉納後は万歳三唱

■ 2/10(月) こどもはだか ■

子どもたちが安全に祭りの文化に触れることを目的にはじまった「小正五区こどもはだか」。男の子は下帯姿で、女の子は法被を着て、自分たちの手で笹を国府宮神社まで運びます。子どもたちの支度からサポートする小正五区消防団に見守られながら笹を納めました。

「子どもたちが大きくなって、こういった行事があったな、大切だなと思い出してもらいたい。」と団員は語ります。



子どもたちもばんざい! ▶



■ 2/10(月) 雛追神事(はだか祭) ■

小正五区が国府宮神社から任されている「手桶隊」の役割は、神男に触れ、厄を落とそうとする裸男たちによる揉み合いの中で、裸男たちに水を打つというものです。手桶隊は主に小正五区消防団がその役を担っています。神男が現れ、神男に殺到する裸男たちの渦に、肌がすれて怪我をしないよう水を掛けていきます。



▲手桶隊の水汲み、水掛けがスムーズに行えるように道を作る小正五区をはじめとする裸男

■ 2/11(火) 下がり餅切り分け・配付 ■

はだか祭翌日は、皆でついた餅を婦人会・子ども会とともに公会堂で切り分け、なおいぎれとともに地域の方へ配って回ります。



小正厄年奉賛会は、厄年を終えたOBメンバーが、技術や慣習を厄年現役世代に伝えながら共に活動をしていました。

OBから現役世代、また参加する子どもやその親世代とも、はだか祭に関する共同作業を顔を合わせて行うことで、世代を超える交流が生まれています。

「名前はわからなくても顔はわかる。外で会うとあいさつをしたりする。」など、自然に地域の縁が育まれているようです。

また、今回の取材をとおして、多くの方がそれぞれ口にしていただいたのは、『手桶隊を担う地区のプライド』という言葉。『この取り組みを残していけないといけない』という想いが、すべての活動の基盤となり、地域の連帯感を強めていると感じました。



稲沢市社会福祉協議会
マスコットキャラクター
福ちゃん

編集後記 はだか祭の開催に向けて、奉賛会を中心とした集いが各地区で行われ、祭りを通して地域の連帯を深めたのではないのでしょうか。それぞれが地域の宝だと感じます。小正五区の皆さま、ありがとうございました。